

群馬県立女子大学 FLRI Newsletter

Foreign Language Research Institute

外国語教育研究所だより

Vol.36 2020.3.24

外国語教育研究所は群馬県における外国語教育の拠点として、外国語教育の充実、地域社会への貢献、グローバル人材育成及び国際交流の促進に寄与することを目的にさまざまな事業に取り組んでいます。

グローバル人材育成事業「明石塾」

公開講義

11月16日、株式会社リクルート北関東マーケティング代表取締役、中島淳二氏を招いて、「未来をみつけよう！」という演題で公開講義を行いました。塾生たちとの対話を重視しながら、「グローバル」「テクノロジー」「人口減少」をキーワードとして、質疑応答やグループ活動、全体シェアを交えながらご講演頂きました。「人事担当が重視するのは主体性・リーダーシップ・協調性であり、最初から全てを備える人はいない。学んで身に付けて行く必要がある。そのときに一番大事なのがコミュニケーション能力。自分の思っていることを相手に伝えることだけではなく、相手が伝えようとしていることを理解できるということが重要。そこには論理が必要となる。なぜなら日本人同士はなんとなく伝わるが、外国の人とは伝わらないから。そうすると今学んでいる全ての教科科目が生きてくる。」というお話に塾生たちは真剣に聞き入っていました。



中島淳二氏（リクルート（株）北関東マーケティング 代表取締役社長）



グループダイアログ

塾生の感想

私たちが向かっていく「誰も経験したことのない答えのない時代」が一体どんなものなのか、初めて具体的にイメージすることができました。中島さんのお話を聞いて、私に欠けているのは「主導性」と「相手の気持ちや思いを考察することができる力」だと痛感しました。その解決策についてもお話を頂きました。それは目の前のことに全力で向き合うことです。これから学校生活や私生活においてより真剣に向き合おうと思いました。まだ進路先が定まっていなことに焦りも感じていましたが、将来を模索しながら進んでいくのも一つの選択肢だという話にほっとしました。目標が定まっていなからこそ、興味のある様々なことに積極的に取り組むことで、視野を広げて行きたいです。自分の将来に自信がもてる素晴らしい講義でした。

海外研修



学校訪問



ホームビジット



シンガポール

塾生の感想

- 毎日がとても刺激的でした。自分がいかに狭い世界で生きているのか、グローバル化が進む日本の未来、そして異文化理解と多文化共生の重要性について実感する1週間でした。2カ国で現地の高校生と交流できたのは大変貴重な経験でした。
- 現地の高校生に対して英語でプレゼンテーションをするのは初めての体験で緊張しましたが、うまくコミュニケーションも取れ、自分にとって大きな自信となりました。一つの国の中に多くの宗教が根付いているのを間近で見ることができ、グローバル化を象徴していると感じました。
- 多文化社会とその現状について理解が深まりました。企業訪問ではマレーシア・シンガポールが抱える産業問題を学ぶことができました。また学校訪問では自分の英語力が相当鍛えられたと実感しています。

研修報告 (10月～3月)

明石塾では後半のスケジュールを次のとおり実施しました。英語研修は本研究所の外国語研究員が行いました。

日付	午前 10:00～12:30	午後 13:30～16:00
10月12日(土)	英語研修 Environmental Issues	東京フィールドワークまとめ、テーマ討論②
11月9日(土)	英語研修 Climate Change	公開研修プレゼンテーション準備
11月16日(土)	英語研修 Problems Facing the World in the 21st Century	[講義](公開)中島 淳二氏 (リクルート(株)北関東マーケティング代表取締役社長)
11月30日(土)	英語研修 U.N. Mock Debate	海外研修準備(事前研修)
12月14日(土)	英語研修 Japan's Aging Society	海外研修プレゼンテーション準備
1月4日(土) ～10日(金)	マレーシア、シンガポール海外研修 (学校訪問、企業訪問、フィールドワーク、ホームビジット等)	
2月1日(土)	英語研修 Debrief on Malaysia and Singapore	グループワーク
2月8日(土)	英語研修 Globalization and How It Affects in Japan	研修まとめ、 成果発表会準備
2月15日(土)	研修まとめ、 成果発表会準備	研修まとめ、 成果発表会準備
3月7日(土)	研修成果発表会及び修了式は延期となりました。	



英語研修の様子

明石杯高校生英語コンテスト

10月25日に群馬県教育委員会、群馬県高等学校教育研究会英語部会との共催で、明石杯高校生英語コンテストを開催しました。県内各地区での予選を通過した85名が、4部門に分かれ、その成果を競い合いました。

全ての部門終了後の特別講演では太田市立太田高校ALTのJunaly Durana-Lejaさんをお招きし、“The Power of Body Language and Gestures”という演題でご講演頂きました。



順位	部門	プレゼンテーション	レシテーション	スピーチ第1部	スピーチ第2部	〈特別賞〉
1位		マルカ ギア (渋川青翠1年)	小田 朱莉 (沼田女子1年)	星野 騎士 (四ツ葉学園5年)	佐野 智咲 (ぐんま国際2年)	プレゼンテーション 進藤 綾乃 (前橋東3年)
2位		尹 哉媛 (中央中等5年)	榛澤 風香 (四ツ葉学園4年)	池田 彩 (新島学園2年)	戸ノ岡 桜和 (太田女子2年)	レシテーション 新井 健颯 (万場2年)
3位		橋本 謙太郎 (中央中等5年)	今井 花香 (新島学園1年)	森山 花琳 (四ツ葉学園5年)	瀬間 愛李 (前橋西1年)	スピーチ第1部 和田 菜花 (前橋女子1年)
4位		高橋 颯月 (前橋女子1年)	工藤 寿美 (館林女子2年)	茂木 万莉杏 (中央中等5年)		スピーチ第2部 アリ ラレブ (伊勢崎商業2年)
5位		徳永 環 (前橋女子1年)	堤 梨紗 (市立太田1年)	松浦 かおり (館林女子2年)		
6位			村中 柚香 (農大二高1年)	得田 乙寧 (中央中等4年)		

English Help Desk

後期から本学の学生を対象に「English Help Desk」を開設しました。本学生への英語教育のさらなる充実を目指し、自発的、意欲的に学習したい学生に対して個別に外国語研究員が支援しています。

支援内容としては英語学習（授業、英会話、プレゼンテーション、ライティング等）や留学に関わる申請書の書き方や申請方法など多岐にわたります。相談件数も徐々に増え、学生のより深い学びへとつながっています。



相談中の学生

留学支援事業

1月23日に春季短期海外研修参加者向けに群馬県親善学生大使委嘱状交付式が行われました。小林学長は、「群馬を通して国際理解を深めるとともに、群馬と海外の架け橋となってください。この経験が皆さんの人生の中で輝かしいものの一つになることでしょう。」と短期研修を目前に控えた学生たちに激励の言葉を送りました。学生代表として、国際コミュニケーション学部2年後藤舞帆さんが「たくさんの見方・考え方をしながら、留学先の良いところや日本との違いを実際に感じたい。群馬の魅力や独自の文化風習などを現地の人たちに伝えたい。」と力強く決意表明をしました。その後、行われた最終渡航説明会では、国際交流委員会委員長である山崎先生（文学部総合教養学科）が「自信を打ち砕かれる瞬間がスタート。臆せず出て行き、自信が打ち砕かれる。そこからのスタートが大事。気持ちを強くもって研修に臨んでください。」と学生へエールを送りました。



群馬県親善学生大使委嘱状交付式で代表挨拶をする後藤舞帆さん（国際コミュニケーション学部）

県立女子大生の留学体験談

短期海外研修 Langports English Language College (オーストラリア) 英米文化学科2年 K.S

約2ヶ月のブリスベンでの短期研修は一生忘れることのない特別な経験となりました。自分で情報収集したり、語学学校とやりとりしたりすることは負担と不安の多いものでしたが、結果としては大いに達成感を味わうことができました。この研修では「飛び込む勇氣、積極性、主体性」の大切さを何度も痛感しました。特にディベートの授業や世界中の仲間との人間関係構築からそれらを学びました。「迷ったらやってみる、言ってみる」を心がけたことで、自分自身が精神的に大きく成長したと感じています。どの国の留学生も「明るく楽しむ」姿勢を大切にしている、それは世界共通な側面だと思いました。またこの研修から、「当たり前」の大切さを知りました。自分のいる環境は、家族を含めたたくさんの人のおかげで成立していることが改めて分かりました。今の自分ならば、人に頼り過ぎず、また他人のせいにならないで、自己判断と感謝をしながら前に進んで行けそうです。この経験に感謝し、これからの生活に活かしていきたいです。



学校の仲間と

長期留学 Thompson Rivers University (カナダ) 国際コミュニケーション学部2年 Y.A

大成功に終わった留学でした。そう思える理由は三つあります。一つは生きた英語を体で感じる事ができたことです。ただテストのためだけに学んでいた英語ですが、留学中は間違えを恐れず、何度も何度も繰り返し使うことで英語表現の幅を広げながら、生きた英語を体得する事ができました。二つ目はオープンな文化に触れる事ができたことです。移民の多い国で一人一人が絶えず社会と交流をもち良い気を循環させていると感じました。そこにはお互いを尊重しあう共存している文化がありました。三つ目は図太さを身に付けられたことです。カナダ人と生活を共にする中で、芯さえ通っていれば、何事も多少のぶれはあっても乗り切れると思えるようになりました。他人を気にしすぎたり、きまじめに考えすぎたりするのではなく、「たいしたことはない」と思える幅が広がりました。携帯電話なしでの一人旅でも、人に頼りながら、その土地その土地の人情に触れながら、カナダ人との交流を楽しむことができました。



ホストファミリーと

高等学校連携英語授業

本研究所は「英語学習の動機付けと環境づくり」を提言し、高校と連携し、3回の集中授業を通して言語活動を中心として、生徒が主体的に学び、表現する場を提供しています。少人数グループごとに研究員一人を配置し、相手を説得するための表現やインパクトのあるデータの収集法など、具体的で細やかな指導をする中で、生徒たちは自然と英語でのやりとりをしながら、表現を繰り返し使って知識の定着を計りつつ、実践的英語を身に付けていきました。また、ディベート講座やワークショップ支援等、各学校のニーズに合わせた授業支援も行いました。

高大連携英語教育事業についての詳しいお問い合わせは、研究所までご連絡下さい。



高崎経済大学附属高校



高崎女子高校



中央中等教育学校



伊勢崎高校



沼田女子高校

県民英会話サロン「グローバルカフェ」

毎週木曜日の夜、研究所の外国語研究員6名と英会話を楽しみながら、一つのトピックについて意見を交換し合う「グローバルカフェ」を本学6階にて実施しました。平成13年から続く「グローバルカフェ」は11月8日には延べ実施回数が600回となりました。今年度は延べ1,113人の皆さんにご参加頂きました。小学生、中学生、高校生、本学の学生だけでなく、他大学からの参加も増えました。50の手習いにと参加を決めた方、英検1級取得を目指すシニア、海外勤務豊富な方やこれから海外に赴任する方とレベルも目的も様々ですが、ここにはいつも笑いとおもしろい発見がありました。



会話を楽しむ参加者



カフェ参加者を前にカンボジアの今について話すチャンソヴァン ヴォリークさん

第2期の最終日12月19日は「カフェスペシャル」と題して、ゲストプレゼンターを招きました。群馬大学工学部大学院に留学中のチャンソヴァン ヴォリークさんを招き、出身国カンボジアの文化や風習について多くの写真を使ってお話を頂きました。参加者からは感嘆の声があがったり、英語で質問したりして、熱気にあふれたカフェスペシャルとなりました。

令和2年度の開催については、4月以降、本学のホームページでご案内する予定です。今後たくさんの皆さんの参加をお待ちしています。皆さんとグローバルなひとときを是非お過ごしください。